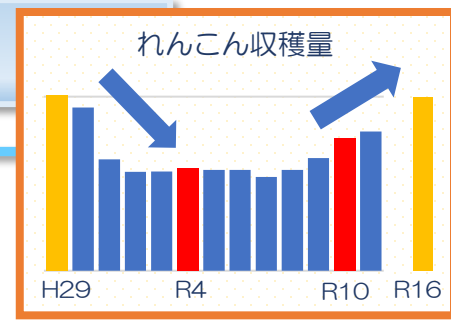


れんこんV字回復プロジェクト



目的

本県のれんこん産地では、「れんこん腐敗病」等の発生により、収量・品質の大幅な低下が進行する中、ブランド産地の強化を図るため、栽培管理の改善により、生産力の回復を図る。

目指すべき姿

- ・れんこんの生産性・収益性が改善
 - ・経営感覚に優れた生産者が多数を占め、経営が安定
 - ・「出荷調整作業」が見直され、経営規模の拡大が加速
- 産地全体として生産量が大幅に増加する**

〔成果目標〕 収穫量 4,950 t (R4) → 5,800 t (R10) → 7,000 t (R16)
 反収 17%アップ (R10) → 40%アップ (R16)

現状・課題

連携

(現状)

○将来を見越した県域の生産振興の継続的な議論が必要
 (県域の生産振興に係る実行組織がない)

→ (課題) **県域課題に対する統一した取組の実践**

生産面

(現状)

○反収が1トン未満に低下(主な要因:腐敗病、施肥不足、すじ堀り)
 ①太陽熱消毒を実施する生産者数・・・24%にとどまる(R5)
 ②適正な施肥ができていないほ場数・・・16%にとどまる(R5)
 ③すじ堀り(反収8割程度)の増加

→ (課題) **反収の増加**(生産者の意識変化、新たな技術導入、仕組みづくりなど)

経営面 販売面

(現状)

○一部生産者では経営が悪化
 ○出荷調整作業が、個人の規模拡大の制限要因である
 ○個選個販であり、産地として利益最大化が図られていない

→ (課題) **生産者の個々の経営改善
 共選体制の導入による規模拡大・利益最大化**

人材面

○労働力に余裕がある生産者と不足している生産者の存在
 ○経験の少ない生産者を対象とした技術習得の場が少ない

→ (課題) **生産者間の労働補完
 若手生産者の技術習得の場の確保**

課題解決に向けて

連携

○「徳島れんこん生産振興対策協議会」の開催
 → 役割分担、JA間の意見すり合わせ、県域実行組織の設立検討

生産面

○反収増加対策の周知(JA、鳴門藍住、徳島)
 → 実証展示、サミット・研修会の開催、パンフレット作成、SNS等
 ○太陽熱消毒作業の省力化技術(機械処理)の実証(鳴門藍住、JA)
 ○腐敗病に強い品種選定、品種の拡充(農産園芸、鳴門藍住、徳島)
 ○効果的な施肥技術の確立(資源環境)
 ○労働力不足に対応するスマート技術推進(鳴門藍住、農産園芸)
 ○硫化水素など他の反収減少要因に対する個別指導(JA、鳴門藍住)
 ○水稲との輪作体系の実証(鳴門藍住、JA、生産流通、農産園芸)

仕組み づくり

○太陽熱消毒処理面積の増加に向けた支援(生産流通、鳴門藍住、徳島)
 → 支援事業等の具体化検討(例:太陽熱消毒作業補助金)
 新たな受託組織の設立等の検討

経営面 販売面

○経営の将来シミュレーションによる指導(鳴門藍住)
 ○共選シミュレーション(鳴門藍住)
 ○共選体制に対する意向調査(JA、鳴門藍住)
 ○共選体制移行への工程表作成(JA、鳴門藍住)

人材面

○労働補完のマッチング(JA)
 ○経験の少ない生産者を対象とした研修会開催(鳴門藍住)

【徳島れんこん生産振興対策協議会】

